

刊行にあたって

本書は、2012年5月12日に京都大学稲盛財団記念館で開催したワークショップ「洪水が映すタイ社会——災害対応から考える社会のかたち」の記録を整理したものです。

本ワークショップは、東南アジア学会関西例会を主催組織とし、いくつかの組織・プロジェクトの共催によって実施しました。東南アジア学会では、2004年12月のインド洋津波（スマトラ沖地震・津波）を契機に、東南アジアにおける災害の発生に際して、募金活動だけでなく、地域の専門家として被害と救援の状況を発信し、また、災害対応を通じてあらわになる社会のかたちを読み解き、示すことを試みてきました。

2009年9月の西スマトラ地震では、学会として緊急研究集会「支援の現場と研究をつなぐ——2009年西スマトラ地震におけるジェンダー、コミュニティ、情報」を開催し、また、翌年の研究大会ではパネル企画として「学術研究と人道支援——2009年西スマトラ地震で壊れたもの・つくられるもの」を開催しました（それぞれの研究集会の内容については報告書が作成されています）。これらの研究集会を重ねることにより、災害発生時に工学、人文社会学、人道支援などのさまざまな専門家が集まって災害と災害対応を多面的に分析する研究協力のあり方が、かたちづくられてきました。

本ワークショップはそのような東南アジア学会による災害対応研究の一つとして位置づけられますが、本ワークショップの直接のもとになった研究会は、2012年2月に京都大学東南アジア研究所のバンコク連絡事務所で行われたタイ・バンコク研究会の第50回記念ワークショップです。京都大学大学院アジア・アフリカ地域研究研究科の博士課程に在籍する竹口美久さんと佐治史さんを企画者として、2011年のタイ洪水に関して、岩城考信さんと水上祐二さんの報告が行われました。タイ洪水について検討するとともに「タイ社会のかたち」を検討しようとするたいへん野心的な研究会で、その議論をぜひ継続させたいという思いがもととなって、その拡大版として日本に場所を移して実施したのが本ワークショップです。

東南アジア学会関西例会の会場である京都大学稲盛財団記念館をよく利用する京都大学の部局に、東南アジア研究所、大学院アジア・アフリカ地域研究研究科、地域研究統合情報センターがあります。タイ洪水のワークショップを京都で行うことを検討したとき、この3部局にタイ研究者がたくさんいることに改めて気づきました。幸いにも、タイ研究者の方々にワークショップ参加のご快諾をいただき、また、タイ・バンコク研究会の岩城さんと水上さん、そして竹口さんにも報告者となっていただき、本ワークショップを実施しました。

本ワークショップは、三つのセッションと総合討論という構成になっています。第1セッションから第3セッションまでは、それぞれ工学、社会学、政治学のアプローチによって2011年のタイ洪水を多方面から分析したものです。総合討論では、タイ社会や災害を直接の専門としない研究者を討論者にお迎えして、三つのセッションでの討論を通じて浮かび上がる「タイ社会のかたち」について議論しました。本ワークショップの趣旨説明および議論の内容については本文をお読みください。

最後になりましたが、ご多忙にもかかわらず本ワークショップにご参加くださいました報告者と討論者ならびに参加者のみなさま、そしてワークショップの主催組織である東南アジア学会関西例会、京都大学地域研究統合情報センター「災害対応の地域研究」プロジェクト、ワークショップ共催組織である地域研究コンソーシアム(JCAS)社会連携部会、京都大学地域研究統合情報センター共同研究「紛争・災害後社会のメディアと記憶」(代表:西芳実)、科研費・基盤(B)「自然災害からの創造的な復興の支援を目指す統合的な民族誌的研究」(代表:清水展)、科研費・基盤(A)「災害対応の地域研究の創出——「防災スマトラ・モデル」の構築とその実践的活用」(代表:山本博之)の関係者のみなさまに深く感謝申し上げます。

東南アジア学会関西例会担当(2011～2012年)
京都大学地域研究統合情報センター

山本 博之